

浜松トップガンプロジェクトとの関わり：生物・化学実験を担当して

著者	大橋 和義
雑誌名	技術報告
巻	23
ページ	43-44
発行年	2018-03-23
出版者	静岡大学技術部
URL	http://doi.org/10.14945/00025273

浜松トップガンプロジェクトとの関わり

-生物・化学実験を担当して-

大橋 和義

静岡大学 技術部 教育支援部門

1. はじめに

地域連携の一環として、教育学部附属浜松中学校内に設置されている「浜松トップガンプロジェクト」との関わりについて報告する。

トップガンプロジェクトとは、浜松・東三河地域イノベーション戦略推進協議会長期的教育システム研究チームの、「夢と志をもって世界に羽ばたく人材」を浜松・東三河地域から多数輩出することを目的に理科教育システム（HP 抜粋）である。

その活動の一部として生物・化学の実験を行ったので、それについて紹介する。

2. トップガン教育システムの紹介

2.1 背景

「夢と志をもって世界に羽ばたく人材」を浜松・東三河地域から多数輩出することを目的に理科教育システム。特に理数系の分野において子供たちの個性を伸ばして「得意」を「特異」とする教育システムを確立することを目的として、静岡大学、浜松医科大学、光産業創成大学院大学、静岡県、浜松市、浜松科学館、浜松商工会議所、浜松地域イノベーション推進機構によって構成されている。

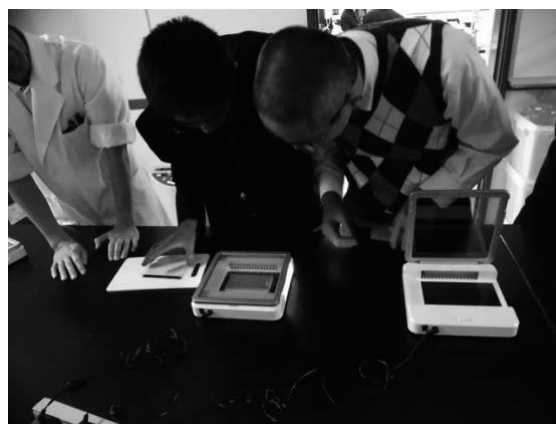
2.2 取り組みについて

附属中学校の生徒に対して、大学教員や企業による課外講義などの「才能の育成」、附属と地域の子供・保護者・教師に対して理科プレゼンテーションコンテストなどの「才能の発掘」、HP 開設など「広報」、地域の理数系教員の研修支援などの「教員研修」、他の付属校との連携、科学の甲子園ジュニアなど全国大会への出場などが挙げられる。

3. 生物・化学実験

科学の甲子園ジュニアに出場する生徒たちに対して、分子生物学的な実験を通して、ピペットの使用方法や遠心分離器の使用方法などを体験してもらいながら注意事項などを指導した。

普段の学校では触ったことがない装置や器具を実際に使用することで、授業と実際の体験がリンクしてより高度で専門的な知見を得ることができたと思う。





浜松トップガン教育システム事業概念図

